

包括的民間委託

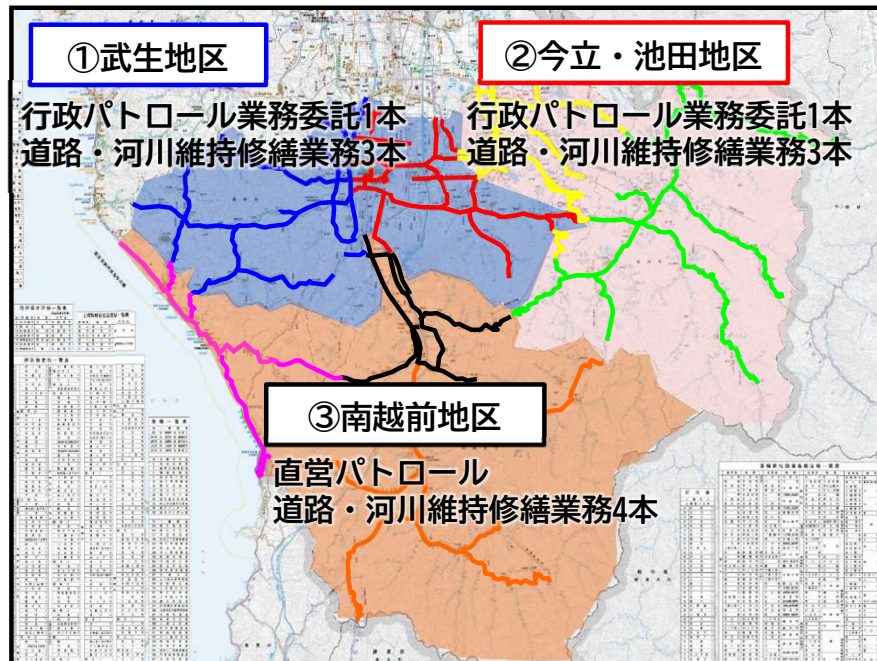
【群マネ（多分野連携）】

○丹南・小浜土木事務所において、包括的民間委託の導入を進めている。

- ・令和5年度から**武生地区**において包括的民間委託を開始
(行政パトロール業務委託と、複数の道路・河川維持修繕業務委託を一括で発注)
- ・令和6年度からは**今立・池田地区**にもエリアを拡大
- ・令和7年度からは**複数年契約（2か年）**を実施
- ・令和8年度からは**南越前地区**にもエリアを拡大
また、小浜土木事務所（小浜・上中地区）でも開始

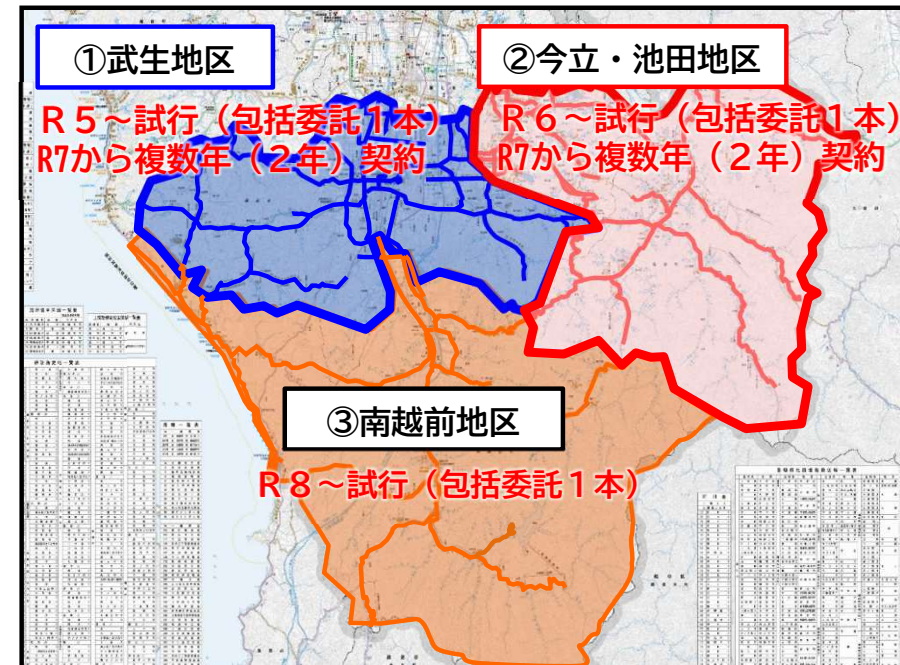


これまで（令和4年以前）



<導入効果>

令和8年現在



- ・複数に分かれていた業務が1つになることで**対応が迅速化**
- ・複数年契約により、スケールメリットによる**受注者の経営の安定化や設備投資意欲の向上**

橋梁の点検・判定の補助、データ管理支援

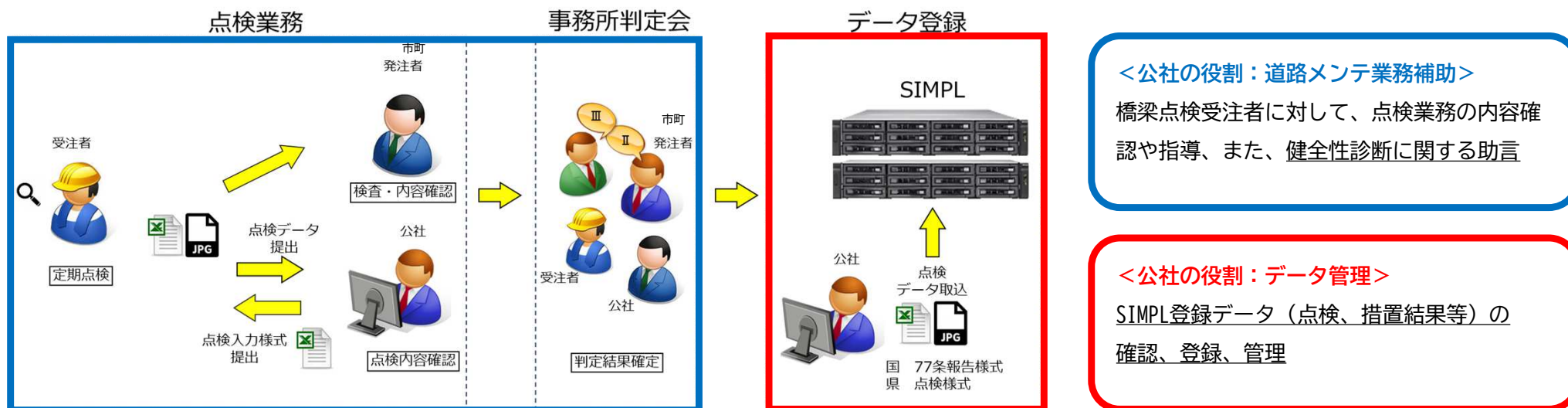
【群マネ（データの束）】

○福井県では、7市町※¹⁾において県の外郭団体（建設技術公社）による「橋梁の点検・判定の補助」※²⁾および「データ管理」※³⁾を実施している。

※1) 敦賀市、小浜市、大野市、池田町、越前町、おおい町、若狭町

※2) 橋梁点検結果をそのままデータベースに入力するのではなく、判定に間違いがないか市町ごとに判定内容に差異が生じていないかを確認する目的で『判定会』を開催し、その中で、県と同じレベルで判断している。

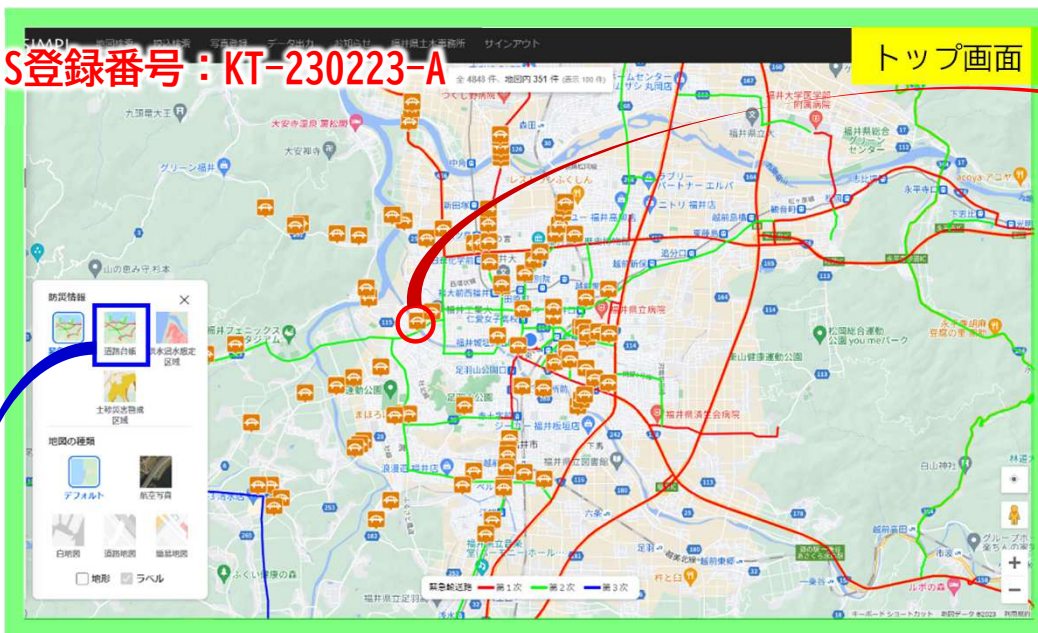
※3) 点検データをはじめ、措置結果等（診断、調査、設計、補修工事）の内容を県が導入しているインフラ管理プラットフォーム（SIMPL：次頁参照）へ保存する作業を代行し、市町はクラウド上でいつでも安心して内容を確認できる。



(参考)社会インフラ管理プラットフォーム(SIMPL)

- ・県が導入しているインフラ管理システム
- ・道路維持に関する情報をクラウドに保存し、道路管理者と受注者間で情報共有ができる他、市町の情報も保存できるので、県と市町間でも情報共有ができる。
- ・過去事例、類似事例などの検索・参照が容易なため、クラウドを通じての技術継承や市町支援が可能。

NETIS登録番号：KT-230223-A



個別施設情報

施設情報	構造情報	設置環境情報
施設名: アイリスブリッジ	高さ: 175	占有物件: 無し
施設名カナ: アイリスブリッジ	幅員: 4.8	通行制限: 無し
施設コード: 091501	スパン数: 3	優先権ルート: 無し
OAD施設ID: 36.20056.136.23056	流域区分: 無し	流域区分: 無し
施設名: 北河津村白糸道	主筋の表裏距離: 無し	設置時期区分: 無し
管理種別: 一般国道	管理区分: 無し	建設時期区分: 無し
管理種別: 福井道	管理区分: 無し	建設時期区分: 無し
管理事務所: 三日月土木事務所	設計者: 三日月土木事務所	交差(鉄道): 無し
所在地: あわら市北河津	設計者: 三日月土木事務所	交差(河川): 二級河川 北河津
上下流域区分: 無し	建設種別: 市町管理橋梁	交差(その他): 無し
代線: 無し	橋長: 0	備考: H22点検
白濁: 無し	竣工年: 1998	
緊急輸送路: 無し	橋高: 0	
竣工年: 1998	橋高: 0	
緊急輸送路: 無し	橋高: 0	

タイムライン (竣工、点検、補修履歴)

- 1998年 竣工 (1998) アイリスブリッジ完成 (091501.xlsx)
- 2009年 補修・補修増強 (2009-05-01) 施工者:不明 / 設計業者:不明
- 2011年 点検:レベル1、レベル2点検 (2011-02-14) 点検者(会社):不明 / 点検者(責任者):不明
- 2013年 点検:レベル1、レベル2点検 (2013-12-12) 点検者(会社):不明 / 点検者(責任者):不明
- 2016年 橋工事 (2016-03-25) (091501_creal.xlsx)
- 2016年 点検 (2016-11-28) (091501_creal.xlsx)



詳細情報 (点検調査等)

健全性記録様式	調査ID	031201	管理者名
水路橋	調査者	みずこしほし	一般国道 段下橋補修
調査種別	調査種別	一般国道	調査種別
調査種別	調査種別	一般国道	調査種別
調査種別	調査種別	一般国道	調査種別

調査種別の健全性の診断: 交通規制 2 人 18 h 点検員補綴の

判定区分: Ⅲ 横断にひびわれが確認される。橋梁構造の健全性の観点から速やかに補修等を行う必要があると考え、健全度Ⅲ(対策区分Ⅱ)と判断した。

健全写真: 橋面(点検前、健全性を記録すること) 橋脚(点検前)

健全写真: 橋面(点検後、健全性を記録すること) 橋脚(点検後)

健全写真: 橋面(点検後、健全性を記録すること) 橋脚(点検後)

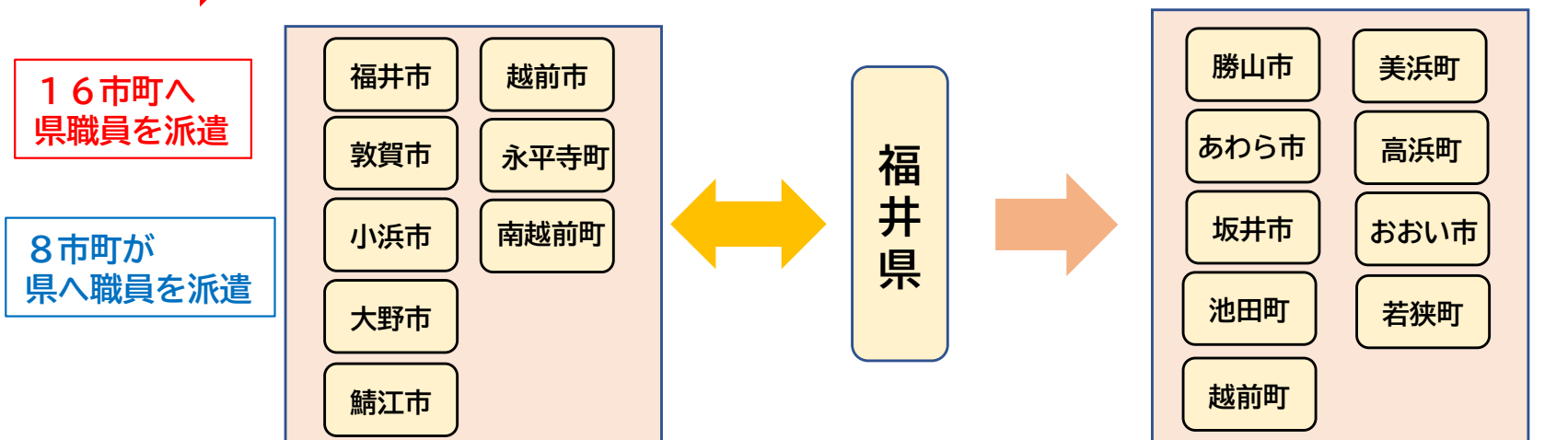
17市町への職員派遣

【群マネ（技術者の束）】

○福井県では、17市町へ県職員の派遣を実施し、直接的な技術支援を実施。
また、8市町が県へ職員を派遣しており、県の業務内容を学ぶことで、技術力向上を図っている。

【効果】 県と市町が連携を強化し、より広域的な視点でのインフラ整備や地域課題の解決が可能

➡ ○市町の技術力向上 ○広域的な連携強化 ○住民サービス向上



	県⇒市町	市町⇒県		県⇒市町	市町⇒県
福井市	1	1	永平寺町	1	1
敦賀市	1	1	池田町	1	—
小浜市	2	1	南越前町	1	1
大野市	1	1	越前町	1	—
勝山市	1	—	美浜町	1	—
鯖江市	2	1	高浜町	1	—
あわら市	1	—	おおい町	1	—
越前市	1	1	若狭町	1	—
坂井市	1	—	合計	19 (17市町)	8 (8市町)

メンテナンス研修の実施

【群マネ（技術者の束）】

○自治体職員（国・県・市町）等を対象にしたメンテナンス技術者育成のための研修を毎年複数回実施

令和7年度福井県道路メンテナンス研修実績

回数 時期	内容	対象者	講師	備考
第1回 R7.6.27	メンテナンスの基礎 ・コンクリート構造物の劣化 ・鋼構造物の劣化 ・詳細調査編に基づく調査内容	・点検、補修業務担当者	・福井県コンクリート診断士会	・対面(+Web) 福井土木事務所 56名参加
第2回 R7.7.23	新技術採用現場見学 (一般国道 赤穂崎公園線 志摩橋) ・簡易内部圧入工(亜硝酸リウム)リハビリカプセル工法	・点検、補修業務担当者	・福井県小浜土木事務所 ・福井県道路構造物保全協会	・現場 おおい町大見 27名参加
第3回 R7.8.27	補修・補強事例集に基づく事例説明	・点検、補修業務担当者	・福井県コンクリート診断士会	・対面(+Web) 福井土木事務所 65名参加
第4回 R7.9.26	断面修復工体験会 (主要地方道 福井四ヶ浦線 魚見二号橋) ・断面修復工事における新技術紹介	・点検、補修業務担当者	・丹南土木事務所鯖江丹生土木部 ・福井県道路構造物保全協会	・現場 越前町梅浦 37名参加
第5回 R7.10.31	舗装メンテナンスの基礎 ・アスファルト舗装の損傷と原因および調査診断 ・福井県の舗装維持管理ガイドライン等について ・アスファルト舗装の設計および長寿命化に資する工法	・点検、補修業務担当者	・(一社)福井県舗装協会 ・福井県工業技術センター ・福井県道路保全課	・対面(+Web) 福井土木事務所 56名参加
第6回 R7.11.28	新技術採用現場見学 (一般国道 上大納下山線 谷戸トンネル) ・ガイナSHシートボード工法	・点検、補修業務担当者	・福井県奥越土木事務所 ・福井県道路構造物保全協会	・現場 大野市上大納 12名参加
第7回 R7.12.19	橋梁に関する技術講習会 ・鋼橋の補修、補強における留意点 ・床版取替え施工の手引き	・点検、補修業務担当者	・(一社)日本橋梁建設協会	・対面(+Web) 福井県立図書館 29名参加
第8回 R8.1.27	橋梁に関する技術講習会(国道8号 泉跨線橋) ・スマートフォンによる3次元モデルを活用した点検支援技術 ・デジタル画像とAIを用いた橋梁点検サポートシステム	・点検、補修業務担当者	・近畿道路メンテナンスセンター	・現場(+Web) 敦賀土木事務所、敦賀市金ヶ崎町 8名参加
第9回 R8.3.4	PC橋の施工技術と橋梁保全に対する実務講習会 ・わかりやすいPC橋の施工技術について ・PC構造物の補修・補強施工について ・PC構造物の維持保全について	・点検、補修業務担当者 設計コンサルタント等	・(一社)PC建設協会・北陸支部	・対面(+Web) 福井県中小企業産業大学校
第10回 R8.3.17	小型ドローン技術を活用した橋梁点検	・点検、補修業務担当者	・ドローン活用ディレクター (株)ジャン・インフラ・ウェイマーク	・現場 坂井市三国町新保



メンテナンス基礎
(R7.6.27 座学 調査器具の紹介など)



新技術紹介(リハビリカプセル工法)
(R7.7.23 志摩橋)



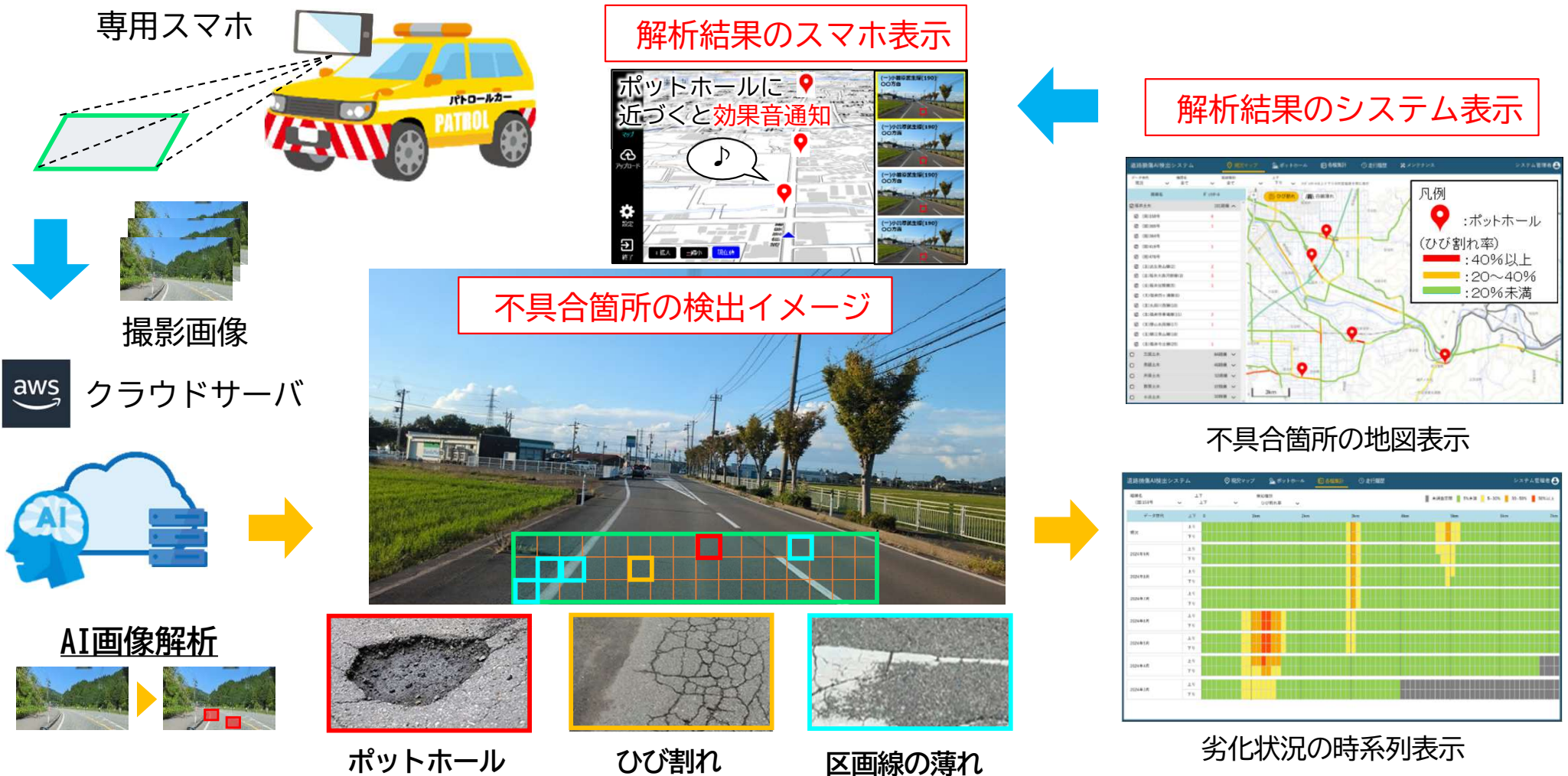
断面修復工体験会
(R7.9.26 魚見二号橋)

システム連携（路面変状AI検出システム）

【群マネ（データの束）】

○パトロール車に設置したスマートフォンによる撮影画像から、**AI画像解析技術**を活用。**道路上の不具合箇所**（ポットホール、ひび割れ、区画線の薄れ）を**自動で検出・解析**し、その結果を「福井県道路管理情報システム」の**地図上で可視化** ⇒ パトロールや道路補修などの業務効率化を図る。

R7.4より県内全土木事務所で運用開始 ⇒ **本システムを市町との共同利用することによる支援を検討中**

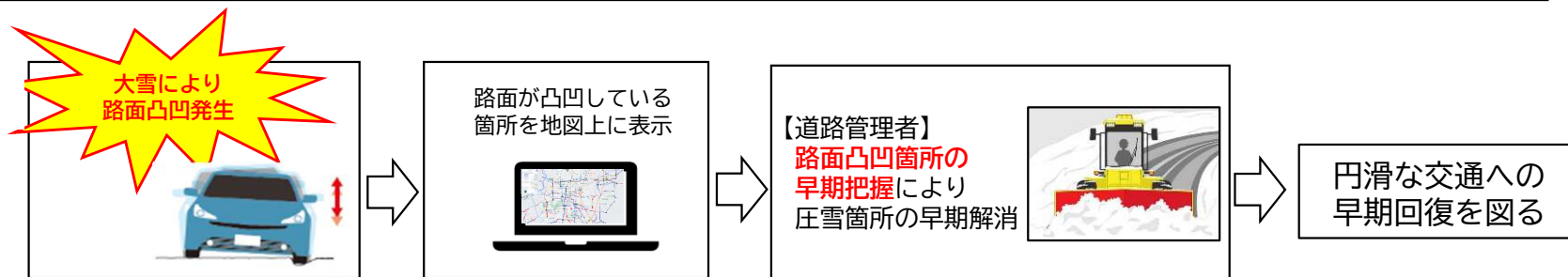


除雪状況の見える化

【群マネ（データの束）】

- HP（[みち情報ネットふくい](#)）上で県・全17市町の除雪状況・交通状況を公開。
また、カメラ画像による道路状況を一元的に確認可能。
大雪により交通障害の恐れがある場合に、路面状況（路面に凹凸がある地点）の情報を提供。

○道路管理者の対応



○県民へのメッセージ 「大雪時は、おうち時間」

・・・路面状況について情報提供し、不要不急の通行を減らし、早期の除雪完了につなげる

The screenshot shows the 'みち情報ネットふくい' website interface. At the top, there are tabs for '除雪状況' (Snow Status) and '交通状況' (Traffic Status). Below the tabs, there are navigation links for different regions: '福井県全域', '福井県北部', '福井県南部', '奥越', '福井県東部', and '福井県西部'. A '表示設定' (Display Settings) panel is open on the left, showing options for '除雪車が通った路線' (Routes where snowplows have passed) with time filters (1-3 hours, 3-6 hours, 6-12 hours, 12-24 hours), '積雪により走行に注意が必要な地点' (Locations where driving requires attention due to snow accumulation) with a 1-3 hour filter, '最重点除雪路線' (Priority snowplow routes), '消雪路線' (Snow-clearing routes), and 'カメラ' (Camera). The main map area shows various locations with colored markers and lines. A red box highlights the '積雪により走行に注意が必要な地点' option in the settings. Another red box highlights a specific location on the map with the text '走行に注意が必要な地点'. A camera view inset shows a road with snowplows, with a red box and text 'カメラで道路状況を確認' (Check road conditions with camera). A text box at the bottom right explains: '※コネクテッドカー通信装置を搭載し車両状態などを送信可能な車。データを統計加工することで路面状態などを推定。' (Note: Connected car communication device equipped, vehicle status etc. can be transmitted. Data is statistically processed to estimate road conditions etc.).



スマートフォン対応

東北大学（IMC）との連携

【群マネ（学の束）】

○東北大学のインフラ・マネジメント研究センターと連携して、インフラマネジメントに関する取組を実施。

【取組内容】

EBPMを活用した緊急輸送道路における被災リスク箇所の対策優先度立案の検討

【実施内容】

- 「緊急輸送道路における被災リスク箇所の対策優先度の計画立案」
 - ・ 施策実施を支援するためのガイドライン（マニュアル）作成
 - ・ データ分析ツール（GIS分析と維持管理システムの連携）の開発
- ⇒ 平時の予防対策だけでなく、**災害後の復旧優先順位にも適用**していく。

【EBPMとは】

データ分析による客観的な情報に基づく政策立案の仕組み

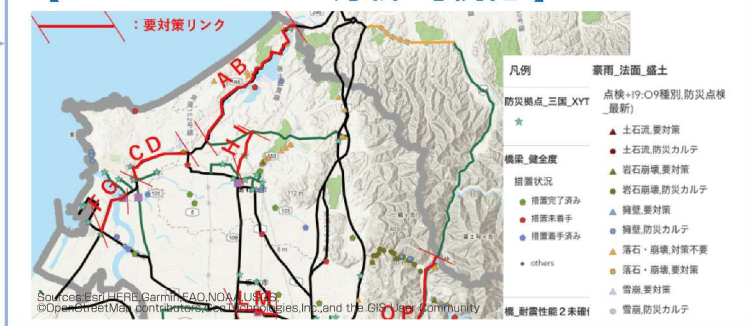
個人の知識や経験などの主観的な情報

エピソード・ベース

データの分析・解析を経て導き出された客観的な情報

エビデンス・ベース

【GISシステムにて分析・可視化】



GISの各リンク（道路）に道路防災対策状況や橋梁耐震補強状況などの情報を入れて点数化し、災害時における被災リスク箇所の優先順位を検討。

●各地域の取組例



東北大学大学院工学研究科 インフラ・マネジメント研究センター（IMC）

【概要】東北大学IMCでは、老朽化が進むインフラを対象に、EBPM（エビデンスに基づく政策立案）に基づく維持管理の普及に取り組んでいます。特に、予算縮小など多様な課題を抱える地方自治体と連携し、インフラが地域社会に果たす役割に応じて、管理水準や優先順位を合理的に設定する手法の実装を支援しています。



地方のインフラを守り、適切・確実な維持管理を普及発展させるために、自治体支援、研究や技術開発、技術者の育成を推進しています。

URL: <https://imc-tohoku.org/>

【支援内容】

資格 表彰 研修・交流・講演・助言 新技術のマッチング・情報共有

自治体支援のフローと事例共有・情報交換の取り組みの例

自治体の課題・ニーズのヒアリング

EBPMを用いた維持管理の実装

事例の共有・情報交換

他自治体への横展開

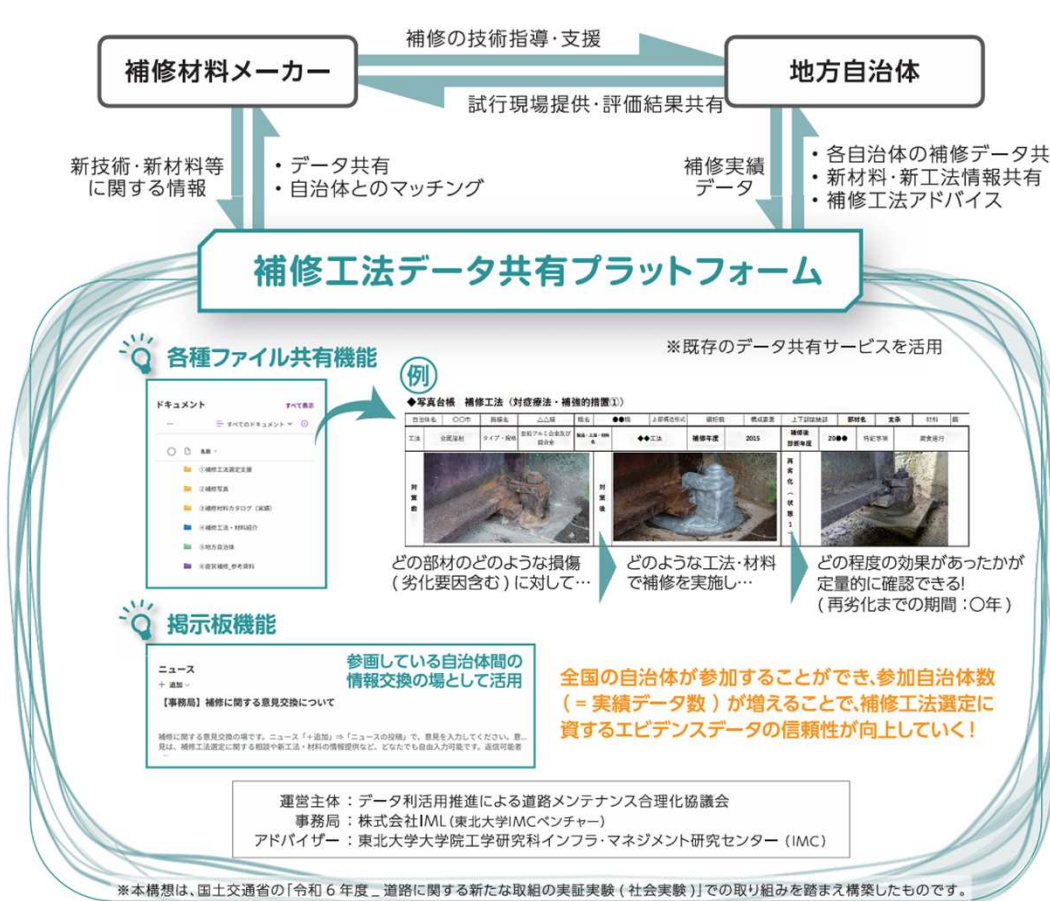
自治体の事例発表

自治体	事例発表
山形県上山市	道路特性に応じたエビデンスに基づく道路維持管理の取り組み
山形県南陽市	山形県南陽市におけるEBPMの取り組み
茨城県牛久市	EBPMを活用した道路管理手法の検討 ～道路と下水道の日常点検一元化を視野に入れて～
秋田県大仙市	EBPMを活用した公園の維持管理の検討
福井県	EBPMを活用した緊急輸送道路における被災リスク箇所の対策優先度立案の検討

群マネの手引きVer. 1に取組例として紹介（p56）

補修工法データ共有プラットフォームへの参加 【群マネ（データの束）】

○補修データ共有プラットフォーム（R7.7正式運用開始）に参画し、補修効果含む補修実績データを自治体間で共有することで、損傷の状態に応じて、自治体の管理水準に見合う適切な補修工法・材料を検索・選定



【特徴】

東北大学IMCのアドバイザーを含む専門技術者による統一した見解で、新技術を含む各種工法・材料の実構造物における「補修の効果」を評価し、損傷種類や劣化要因に応じた適切な工法・材料を検索しやすい形に整理した「補修工法選定支援情報」をプラットフォーム上で共有

SBIR（国土交通省建設技術研究開発助成制度）の成果の一つ

【補修工法選定支援情報】（将来イメージ）

- 橋梁諸元、環境条件
- 点検・診断時に記録される損傷に関する情報（損傷種類・位置、劣化要因、進行性 等）

絞込

	工法名（材料）	工法採用実績割合	補修効果（再劣化割合）			（参考）単価
			5年後	10年後	15年後	
①	断面修復工法（ポリマーセメントモルタル）	5%	5%	25%	40%	200,000円/m ² （t=5cm）
②	断面修復工法（塩分吸着剤入り）	70%	0%	3%	5%	250,000円/m ² （t=5cm）
③	防錆スプレー（ローバル）	15%	30%	50%	90%	5,000円/m ²
④	防錆スプレー（かため太郎）	10%	5%	30%	80%	4,000円/m ²

参画による メリット

- 多くの自治体の補修実績データ、補修効果データを共有・閲覧可能
- 掲示板機能を使った参画自治体同士での情報交換
- 補修に関する技術相談対応（事務局、アドバイザー）
- 補修に関する最新情報共有、新材料の試行工事、技術指導等のマッチング

R8.4現在、福井県、大野市、永平寺町
池田町、越前町が参加